■馬場恒吾　　ジャーナリスト。{ジャパン=タイムズ}{国民新聞}からフリー経て，<敗戦>直後に{読売新聞}を救済。
ばばつねご
初の民間工場1875＝　　岡山県邑久郡長浜村(牛窓町)で，代々庄屋を務めた馬場家の長男に生まれる。

県会議員や銀行の支店長を歴任し教育に金を惜しまぬ父のもと，おおらかに育ち，

明治14年政変1881＝ 6歳：

秩父事件・・1884＝ 9歳：
小学校時代には授業で「太閤記」や「日本外史」「十八史略」などを聞いて英雄崇拝の気持ちを抱き，

中学では「里見八犬伝」と「水滸伝」に熱中して歴史地理好みとなり，探検記・旅行記に耽溺，
帝国憲法発布1889＝14歳：

大津事件・・1891＝16歳：{丸善}のスタンレーのアフリカ探検記の広告を見るや，購入すべく単身上京し，そのまま東京遊学，
大本教・・・1892＝17歳：脚気になって帰郷養生した後，京都の第三高等学校入学。造船技師を夢見て工科を志望，
郡司千島探検1893＝18歳：
日清戦争始・1894＝19歳：
日清戦争終・1895＝20歳：三高を修了し，仙台の第二高等学校に転校するが，工科への興味を失い，
白馬会・・・1896＝21歳：東北学院で押川方義の聖書の講義を聴いて洗礼を受け，同じく講義で感銘受けた安部磯雄の後を追って，
八幡製鉄始・1897＝22歳：牧師になろうと，卒業目前に中退し，同志社神学部に入学するも，キリスト教と葛藤，
子規句歌革新1898＝23歳：自己の判断に従うことを決意して迷いが解消し，中退して，東京専門学校(早稲田大学)政治科に入学，
大隈重信の影響を受けて，{二十世紀}と題する政治雑誌を出したりするが，
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝25歳：父の勤め先の銀行支店の閉鎖により中退。同志社校長横井時雄の紹介で，_{ジャパン=タイムズ}に入社。
身につけてきた強い英語力で，_専ら記事の英訳を担当，世界の見方・考え方の訓練となり，
教科書疑獄・1902＝27歳：

日露戦争終・1905＝30歳：日露戦争の賠償問題で起きた日比谷焼打事件にも民衆同様興奮するが，これにかかわらず，_心情と論理との間で揺れ動いているのを，社長頭本元貞から常に論理につくように指導もされて成長，

伊藤博文暗殺1909＝34歳：_頭本が日本の実業家の後援を受け，ニューヨークで英文月刊雑誌{オリエンタル=レビュー}を創刊することになった際，編集長に抜擢されて渡米，船中，{ロンドン=タイムズ}外務部長から新聞原稿の書き放しを強く戒められ，衝撃を受けるとともに，以後記事を書く際の指針となる。
大逆事件判決1911＝36歳：
明治天皇没・1912＝37歳：
大正政変・・1913＝38歳：_書生のような生活を4年送って，廃刊となって帰国。{ジャパン=タイムズ}に復帰し編集長に就任するが，
第一次大戦始1914＝39歳：同志社以来の友人が編集局長務めいたことから，第一次大戦勃発で世界的視野が必要になった*徳富蘇峰の{国民新聞}に，スカウトされて外報部長となり，英文記者人生に別れを告げ，
ﾛｼｱ革命・1917＝42歳：_ガンに罹るが，手術の様をリアルに書いて正面から対峙，九死に一生を得ると，より積極的になり，
本格政党内閣1918＝43歳：「シベリア出兵の夢」を連載したことを契機に，政友会幹部と知合い，首相になった原敬の知遇も得，
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝44歳：_パリ平和会議の首席全権が西園寺公望であるとスクープに成功，特派され，団員の錚々たる政治家らと知合いになるとともに，彼らの姿勢に，随行した記者連とともに憤慨，帰国して政治部長兼編集局長になるとともに，普選運動の中心的人物になり，「改造の叫び」を連載，{改造同盟}を結成し演説会を開催，
大暴落・・・1920＝45歳：「労働問題と普通選挙」。_ジャーナリストとして確立して行くが，
原敬首相暗殺1921＝46歳：
関東大震災・1923＝48歳：_大震災が起こり，{国民新聞}も罹災，命は助かるも書きためて来た日記を失い，社は経営困難に陥り，
護憲三派圧勝1924＝49歳：_退社し，フリーのジャーリストとして生きて行くことを決意。
治安維持法・1925＝50歳：この年死去し付合いの深かった政友会の「横田千之助論」を嚆矢に，_政治家の人物評論からスタート，
_公平な記述が共感を呼んで，{中央公論}{改造}の常連執筆者にもなり，
共産党事件・1928＝53歳：「議会制度改革論」。_清沢洌に賛同して評論家のサロン{二七会}に参加，長谷川如是閑と肝胆相照らし，
世界恐慌・・1929＝54歳：
海軍軍縮条約1930＝55歳：_「現代人物評論」。
満州事変・・1931＝56歳：_「政界人物風景」。{読売新聞}が東京で他紙に対抗すべく日曜夕刊を始め，{オリエンタル=レビュー}で同僚だった政治部長四方田義茂の招聘で，
五一五事件・1932＝57歳：「大隈重信伝」。*{読売新聞}日曜夕刊に新設の{日曜時評}を引き受け，コラムニストへ展開，
国際連盟脱退1933＝58歳：「議会政治論」。
_日本が世界から孤立して行くなか，コラムは欧米の評論雑誌にも翻訳掲載されるほど注目され，
芥川直木賞始1935＝60歳：「政界人物評論」。_日曜夕刊廃止にともない朝刊に移って{日曜評論}と改題後も執筆続け，
二二六事件・1936＝61歳：「国民政治読本」。
日中戦争始・1937＝62歳：「立上がる政治家」「木内重四郎伝」。_小林一三の肝煎でつくられた言論人のサロン{二六会}に参加するが，
健保+総動員 1938＝63歳：
第二次大戦始1939＝64歳：_軍部に忌避され次第に圧力が強まり，
大政翼賛会・1940＝65歳：_400本近く書続けてきた{日曜評論}がついに廃止。新聞雑誌がだめなら単行本でと，「時代と人物」，
日米開戦・・1941＝66歳：各総合雑誌に内示された_内閣情報局の「執筆禁止者名簿」に掲載され，日米開戦になぜか気分が高揚するのを不思議に思いつつ，「国と人物」を出版し，ゲリラ的抵抗するも，過去の政治評論はすべて絶版に。
・・・・・・1942＝67歳：あたかも住み込むようにいた官憲関係者から監視されるなか，_戦時下唯一の書き下ろし「伊藤博文」で
敗戦・・・・1945＝70歳：信州に疎開し，敗戦を迎え，その後逗子に移る。「平和と自由への発進」。貴族院議員(勅選)。*{読売新聞社}のいわゆる<第一次読売争議>のさ中に，社長正力松太郎が戦犯容疑でGHQにより収監された際，正力に乞われ，メディアの共産化防止を目指すGHQと従業員組合にも歓迎される形で，同社の後継社長に就任すると，
新憲法公布・1946＝71歳：「近衛内閣史論」。_毅然とした姿勢で壮絶な争議を突破，続く<第二次読売争議>も乗切り，その活動が評価され，以後，日本を代表する親英米派自由主義の人物が続々訪ねてくるようになる。
新憲法施行・1947＝72歳：正力が釈放されると直ちに社長辞任を申し出るが，なお公職追放の身の正力の要請で続投するが，
極東裁判決・1948＝73歳：_「回顧と希望」。
三大事件・・1949＝74歳：正力の復帰が近づくと社内抗争で力を発揮することができなくなり，_日本新聞協会会長に就任した後，
独立回復・・1951＝76歳：_社長を退任。言論界につくした功績により新聞文化賞(第一回)を受賞。以後，言論界の長老として，自由な立場から吉田茂を支える評論を書き続ける一方，憲法改正による再軍備も主張するうち，
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝77歳：_「自伝点描」。
国連加盟・・1956＝81歳：*アメリカ人記者との間で，広島・長崎への原爆投下について激論となり，脳卒中を起こして没した。

御厨貴「馬場恒吾の面目」，平凡社百科事典，